

1 総括についての評価

須賀の森学園の教職員にも健康的で働きやすい職場環境になってほしい。そんな中で、教員の時間外勤務時間が減ってきていることはうれしく思う。しかし一方で、病気休業で休職する教職員がいることも課題となっている。教職員が健やかに働き甲斐をもって働けるための組織づくりを進めていくことは急務である。

不登校やいじめなど学校が抱える課題は年々多様化していると思う。そんな中でも、人権教育を基軸とし、集団育成を行っていくことが、改めて今の時代に求められている。小中一貫校として、だれひとり取り残さない集団育成に全力で取り組んでほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R5年度 78.7% R6年度 77.5% R7年度 74.6%)

毎学期いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めてもらっていることはよくわかる。啓発も教員から子供に対して行うものだけではなく、子供たちが主体となっていじめ防止を呼びかけている取り組みは大変すばらしいと思う。認知したいじめを重大な事案にしないよう、今後も徹底した組織的な支援が必要である。現在のいじめは校内で発見できるものだけではなく、SNS等でのものもあり、複雑化している。学校安心ルールを広く周知するなど、保護者にも学校の取り組みや対応を理解していただき、協力していただけるように推進していく必要がある。

年度目標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5年度 3% R6年度 4% R7年度 3%)

不登校といっても、家庭によって要因は様々である。学校で何かあったから不登校になるというより、本人の特性や家庭での生活に起因する不登校が圧倒的に多いのではないか。また家庭環境もひとり親家庭や共働きの家庭が多くなっており、保護者も朝学校に我が子を送り出せないまま、仕事に行ってしまうという家庭も増加している。学校の教員だけでこのような家庭にアプローチし、状況を改善していくのは非常に困難であると思われる。SSRの設置や生活指導支援員の活用など、教育委員会の事業を活用し子供たちの支援が途切れないようにしてほしい。教職員の負担が増えてしまうのは、働き方改革が課題となっている現代ではいかなるものかとも思う。

3 今後の学校園の運営についての意見

昨今、いじめや不登校の問題、外国籍の児童数の増加等、学校が対応しなければならない課題が多すぎるように思う。そのうえ学力・体力の向上を迫られICTの導入をはじめ、様々なものが学校に入ってきている。教員は子どもと触れ合い、お互いの信頼関係のもと、授業を大切にを進めていくことにやりがいを感じるべきである。しかし、様々な対応に疲弊し、職場を去る教職員も毎年のように出ていることが本当につらいことである。教職員の皆さんが、明るく、やりがいをもって、笑顔で子どもの前に立つ。そんな小中一貫校を築き上げてほしい。今後も教育の目的を見直し、子ども主体で地域に開かれた須賀の森学園の姿を、地域も一緒に模索していきたい。